



平成30年3月実施の北欧研修より、アストリッド・リンドグリーン小児病院にて



No.36 (平成30年)

### 社会福祉法人 鶴風会

東京小児療育病院  
西多摩療育支援センター  
後援会

#### 連絡先

〒208-0011  
東京都武蔵村山市学園4-10-1  
電話 042-561-2521 (代表)  
東京小児療育病院  
Eメール torh@kakufuh.com

### 法人運営にむけて

社会福祉法人鶴風会  
理事長 松尾 賢二

今年例年になく氷点下の気温が続く寒い日があり、またインフルエンザの大流行も見られる厳しい冬が始まりました。

皆様方には、いつも鶴風会にご支援をいただきまして有難うございます。

時の経つのは早いもので、前理事長の中里厚先生より引き継いで1年が経ちました。大きな問題もなく過ごせたことは大変喜ばしいことと思っております。今年4月より電子カルテの導入を予定していますが、業務に支障をきたさないようスムーズに移行し、診療の大幅な効率アップを図りたいと思っております。

最近ニュースで子供の虐待が多く報じられていて心に痛みを覚えています。大人は自覚なしに自分のエゴを子供に強いて

### 理念

私達は  
障害児者の生命機能の維持  
向上と生活援助のための誠実な  
積極的取り組み障害児者と  
その家族を支援します

- 1頁 法人運営にむけて
- 2頁 医師の働き方改革と医師のあり方
- 3頁 東京小児療育病院だより
- 西多摩だより
- 4頁 チャリティコンサート「オルフェの会」
- 5頁 みどりまつりチャリティーバザー
- 6頁 後援会だより(北欧研修)
- 7頁 寄贈品のご紹介と御礼
- 8頁 ご寄付者名簿

ることに気づいていないことがあります。子供が問題行動を起こした時に一方的に子供を怒ったり責め立てたりして、ほとんど子供の言い分を聞くことなく頭ごなしに否定的な言葉を浴びせかけ、幼い心を傷つけていることを理解していない大人をよく見かけます。近年、世の中は核家族世帯が主体となっており、共働き世帯が多くなっています。そのために親と子の接する時間が少なくなり、食卓もばらばらになり子供と親の会話がなくなり、子供が悩んでいるにもかかわらず親が忙しくて疲れていると相談することをためらい一人で悩みを抱え込んでしまいます。また、親が毎日ストレスをためてピリピリしていると、それが子供に伝わり必然的に子供の情緒が不安定になります。これらのことを十分に理解して、子供が自由に喜怒哀楽を表現できるようになることが子供の為にも、良い社会を作るためにも一番必要なことだと思います。子供の成績の良いことは大事なことです、それよりもっと

大事なことは子供が健全に成長することです。それにはまず大人が心にゆとりをもって生活し、子供の話を良く聞いてあげるのだと思います。

障害を持ったお子さんをお持ちの両親は、なおさら忍耐強い努力が必要となると思います。しかしその子供の長所を見つけ出し伸ばしてあげると普通の子以上に才能を発揮することがあります。そういう意味でも親の役割、周囲の人の注意深い観察力が求められます。

当施設におきましても、サービスの質の向上を一番に考え良質な医療的対応だけでなく各々の障害児者に合った工夫をし、充実した生活支援を行っております。それらを維持、向上するためには50年以上経過した老朽化した建物、古くなった設備をリニューアルすることが必要不可欠になってきています。厳しい社会福祉情勢により経営環境が悪化する状況の中、健全な運営を目指しておりますが施設を発展させるために皆様のお力をお借りすることがあるかもしれません。

これからも皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 医師の働き方改革と 医師のあり方

社会福祉法人鶴風会後援会  
会長 青木 継稔

大病院や大病院に労働基準監督署が調査に入り、医師の長時間労働是正勧告を行っています。今後あらゆる病院は、『医師の働き方改革』への取り組みに迫られることとなります。発端は研修医の過労死問題です。

医師となるには、6年の医学部教育、その後2年間の研修医（10数年前から有給化されアルバイト禁止で臨床研修が義務化）終了後、医師国家試験を受験し、医師免許を取得します。さらに、2～4年の各科の臨床研鑽・臨床研究（論文作成）の上、各専門医（内科、外科、小児科など）取得、またその上に高度専門医（神経、アレルギー、循環器、消化器など）取得のために数年間必要です。医師として一人前となり、人のため社会のために貢献できるようになるには卒業後10年以上かかるのです。

さらに日進月歩の医学・医療に生涯学習が必要であり、現役医師である限り、「心・技・知」の奥義を絶えず深めねばなりません。日本の医療は、医

師の献身的な努力（労働）により支えられてきたと言っても過言ではありません。

医療側から「医師は労働者か」という点から議論すべき」との強い意見があったのですが、2016年9月、『厚労省の医師の働き方改革検討会』は、「医師は労働者である」との結論が確認されました。36協定の見直し、医師法第19条『医師の応召義務』の検討、宿日直と夜間診療のあり方など事実上青天井の医師の時間外労働に制限を設ける方針が打出されました。

大病院等における診療の外の教育・研究の時間、医療技術の向上や知識の獲得などのための臨床研鑽・症例検討・臨床研究・論文作成・学会発表に要する時間、専門医取得のための自己研鑽などの時間を「労働時間」とすることの妥当性の検討が必要です。これらを労働時間とすれば病院経営は成り立たず、日本の医療は崩壊します。厚労省・労働基準監督署と十分に話し合うことが重要です。

医師の働き方改革の切り札として、(1)複数主治医制、(2)医師の仕事の一部を他職種にタスクシフティング、(3)外来の制限・縮小（例：聖路加国際病院の土曜日休診）、(4)専門業務型裁量労働制（弁護士など19業績が対象：多くの国立大病院が採用）などの方策が浮上している、工夫していくことが必要です。

今こそ医師の働き方改革に取り組むことが大切であり、改善することは重要ですが、「人間性・技能・知識」レベルの低下した医師とならぬように、世界に通用するあらゆる面で有能かつ優秀な医師を育成することを忘れてはなりません。

ヒポクラテスの時代より医師に求められ、医学教育のもっとも大切な奉仕の精神・人間教育はどこへ行くのであるのか。（筆者は小児科医であり永年医学教育に携わってきました。）



## 東京小児療育病院だより

東京小児療育病院

院長 椎木 俊秀

昨年度より旧肢体不自由児施設の東京小児療育病院と旧重症心身障害児施設のみどり愛育園を統合し、東京小児療育病院として176床で再スタートを切りました。昨年度は入所利用者の生活の質のさらなる向上について検討しました。看護・生活支援部を中心に知恵を出し合い、人員不足の中でもできる案ができましたので、今年度より少しずつ実行に移して行きたいと思っております。生活支援員の不足は看護・生活支援部の奮闘でほぼ解消できましたが、看護師不足は続いている状況です。引き続き、看護師確保に向けて取り組みを強めて行きたいと考えています。

診療面では電子カルテの運用がこの3月12日から始まりました。まだ慣れないこともあり大変ですが、慣れてくれば情報共有がしやすくなり、診療面に大きな成果が期待できると思います。使い勝手の良い電子カルテになるよう工夫して行きたいと思えます。

地域支援関係ではNCCU、一般病棟から退院できないでいる方の在宅移行支援にも着手したいと思い、都立小児総合医療センターの担当者との話し合いを始めました。今年度はそれを実行に移せたらと思っています。

グループホームの検討プロジェクトを平成27年度に立ち上げ、最終報告ができあがりしました。結論から言うとグループホーム経営は赤字覚悟で取り組む必要があり、かなり厳しいということになりました。しかし、当法人が経営するかどうかは別にして、拡げて行かなければいけない事業なので、報告の結果を東京都にも説明し一緒になって考えていたかどうかと思っています。

都の担当者も関心を持っておられました。単に行政にお願いするだけでなく、きちんとした根拠や資料を持って相談できるようにして行きたいと思っています。当院の実績は高く評価いただいているので、本気になってやればある程度の協力はいただける可能性はあると思っています。

病棟を除く施設の全面建て替えも差し迫った重要課題です。昨年度は平成36年度着工を目標にして、業者を入れて基本構想の策定作業を行いました。それを基に今年度から本格的な作業に取り組んで行きたいと思えます。建て替えのためには莫大な資金が必要にな

るので、自己資金を増やすための経営改善プロジェクトも立ち上げました。寄付金を集めたり補助金を獲得するための活動も強化する必要があります。その際には読者の皆様にも是非ご協力いただけることを心よりお願いいたします。

昨年度は都内の9つの医療型障害児入所施設・療養介護事業所(旧重症心身障害児施設、旧肢体不自由児施設)と国立精神・神経医療研究センターの施設長会議が立ち上がりました。神奈川県や千葉県では既に何十年も前からそのような協議会があり活動を続けて来ますが、東京都も遅ればせながら活動を始めました。その立ち上げには私も関わらせていただきました。各施設の状態や課題、方針を報告し合いましたが、それだけでも非常に参考になりました。今後は少しずつ形になるものができてくればと考えています。自施設のみならず施設間連携にも貢献できればと思っています。

利用者支援、経営、人材育成をバランスよく行える施設に成長できるように努力を続けたいと思っています。

## 西多摩だより

西多摩療育支援センター

センター長 鶴岡 広

西多摩療育支援センターは、国道16号の外、多摩川を渡った場所にあり、東京都といっても23区とは空気がちがいで、気温が数℃低くなります。

ここよりほんの少し先の地域では、平成26年の「東京豪雪」時に、自衛隊が災害派遣されたほどです。今年は1月22日と2月2日に、南岸低気圧の影響で30cmにおよぶ雪が降りました。

4年前の豪雪の教訓からか、雪に関する注意喚起が、報道や行政も早めになつているなと思います。また、主要道路の除雪も早々に対応されました。

皆さんは「ママさんダンブ」をご存知ですか？雪国では御用達の雪かきグッズです。わがセンターも急遽購入して、就業前に職員総出で雪かきをしました。今までは時間もかかり残雪も多かったです。今回は受付時間前に、車椅子移動ができるように整備できました。

この厳しい寒さは、地球温暖化の影響なのでしょうか？

昨年、何十年に一度の異常気象、という言葉をよく耳にします。

今年の夏の気候も気になるところではありませんが、もうすぐ春です！春がすぐそこまでやって来ています。センター前の街路には桜のトンネルができ、隣地のメタセコイアの並木も芽吹きます。センターのある「あきる野市」は、東京でありながらも自然豊かでのどかな地域です。時には、単線で乗降時にボタンで扉を開閉する五日市線に乗って、秋川溪谷の散策はいかがでしょうか。

お近くにいらつしやいましたら、ぜひセンターにもお気軽にお立ち寄りください。



## チャリティコンサート 『オルフェの会』

法人事務局

\*\*\*\*\*  
毎年12月の第一日曜日に当法人後援会主催にて開催している、歳末チャリティコンサート『オルフェの会』を、今年度は平成29年12月3日(日)にグランドプリンスホテル新高輪にて開催いたしました。



ヴォーチェ・アミーチ・デル・マーレの皆様と前澤善一氏によるコラボレーションの様子

はじめに、オルフェの会世話人である井上和子先生の司会のもと、当法人理事長の松尾より開会のご挨拶を申し上げます。

第一部では、法人の活動についてご理解いただくため、東京小児療育病院院長の椎木ならびに同看護・生活支援部科長の八代より、施設紹介をいたしました。その後、ご来賓を代表して炭山嘉伸先生(学校法人東邦大学理事長)と有馬正高先生(社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会理事長)、安藤高夫先生(自由民主党衆議院議員、医療法人社団永生会理事長)よりご挨拶を頂戴し、山崎純一先生(東邦大学学長)より乾杯のご発声を賜りました。

昼食をはさみ、第二部のコンサートでは、ヴォーチェ・アミーチ・デル・マーレの皆様より、日本歌曲や世界の名曲、本格的なオペラ等13曲に加え、当初予定していた演目でない歌曲やフルートによる独奏等を織り交ぜた趣向を凝らしたプログラムを披露していただきました。また、コンサートの締めくくりには、会場にいた全員で『花は咲く』を合唱しました。

コンサート終了後に、オルフェの会世話人の小川昭子先生より謝辞を申し

あげ、最後に当法人後援会の青木会長による閉会のご挨拶にて平成29年度オルフェの会の幕を閉じました。

今年度も230名を超える皆様にご来場いただき、当日お越しになれなかった方々を含む多くの皆様よりご賛同とご支援を賜りましたこと、心より感謝いたします。



椎木院長による、施設紹介の様子

# みどりまつり

## チャリティーバザー

### チャリティーバザー実行委員会

総選挙の投票日となった平成29年10月22日(日)、台風21号が近づくと悪天候の中、今年で27回目を迎えるみどりまつりと、41回目を迎えるチャリティーバザーとを同時開催いたしました。

実施にあたっては、直前まで中止にするか否か、事務局として判断に迷ったところでしたが、毎年この日を楽しみにしていただいている利用者の皆様やご家族、地域の皆様やバザーへ品物等をご寄贈いただいた皆様への期待に応え、日頃の感謝を示すために、実施することといたしました。

雨風が大変強かったこともあり、ご来場いただく皆様や各催し物にご出演いただく方々、模擬店等の運営にご協力いただくボランティアの方々の安全を考慮し、みどりまつりはメイン会場を訓練棟に移し、当初屋外で行う予定であったイベントは一部を中止し、実施できるものは屋内で行うこととしました。これに伴い、チャリティーバザーは本館地下1階の桑原ホールにて行いました。

オープニングイベントの和太鼓演奏では、轟音が会場内に響き渡り、身体に音の振動が伝わってくる程の迫力でした。演奏終了後は、和太鼓叩き体験もあり、所々で太鼓音と笑い声が混ざり合い、会場が楽しい雰囲気で包まれました。

今年は、初めて参加にご協力いただいた、ダウン症児の親子ダンスサークルによるフラダンスの実演がありました。サークルが発足して初の舞台とのことでしたが、初々しく可愛らしいダンスを頑張つて披露いただき、会場は拍手喝采でした。

午後は世界一にも輝いたことのあるダンスの方々による、ポリネシアダンスの本格的なパフォーマンスに、利用者のご家族を含む観覧していた皆が圧倒され、驚きの声があがるほど、大変好評でした。

院内を巡回するイベントとしては、『501部隊』の皆様にスターウォーズの衣装を身に着け、各病棟を回っていただきました。雨天スケジュールの都合上、部分的な参加となってしまつた利用者や、短期入所の方も楽しめるものとなりました。

職員による出し物は、『射的』を出店しました。流行りのキャラクターを

使用した雰囲気作りが功を奏してか行列が絶えない程の大盛況でした。

また、チャリティーバザーも一時入場規制をせざるを得ないほどの盛況ぶりでした。

天気予報を受け、荒天も考慮しながら準備を進めておりましたが、初めての屋内実施ということで想定外のことも多く、ご来場いただいた皆様にはご不便をおかけしたかと思ひます。その一方で、大きな事故もなく何とか無事に終了することができたのは、ボランティアの皆様とご来場者の方々のご協力とお心遣いをいただけたことになりません。皆様、大変ありがとうございました。今後ともどうか温かいご支援をよろしくお願いいたします。



実施時のご案内 (ポスター、チラシ)





# 北欧研修

東京小児療育病院 看護・生活支援部  
部長 長田 幸枝

法人後援会より支援を受け、2018年3月3日から3月11日の期間、北欧研修を実施致しました。和田診療部長以下、6名の職員が参加し、それぞれが自己課題を持って臨みました。

本研修は今回で3回目を迎え、スウェーデン・フィンランドを研修地として、アストリッド・リンドグレン記念小児病院や特別支援学校、特別保育所、デイサービス、グループホーム等を視察し、福祉制度やその実際を知ることで視野を広げることができました。視察当時の北欧は極寒の季節であり、物語から抜け出たような街並みは一面の雪景色でした。スウェーデンからフィンランドへ渡る船は凍った海を砕きながら進み、接岸にも時間がかかりました。

北欧の福祉は、誰もが必要に応じて

平等なサービスを受けられることを原則とし、その運営は民主的な方法で行われており、必要な財源については国民が連帯して負担すべきという考えに基づいています。現場では個人の尊厳が重んじられ、各施設は自分たちの責任の範囲を、プライドを持って支えています。

視察先では大きな歓迎を受け、リュクスネヴェーググループ住宅見学時には、ブラダー・ウィリー症候群の利用者に直接インタビューすることができ、貴重な体験となりました。

下調べや準備をし臨みましたが、実際に現地に行つて視察先の方々の話を伺つてみて、初めて分かることがいかに多いかを実感しました。

この度の研修が成功裏に終わりましたのは、後援会の支援と多くの皆様の温かいご理解・ご協力の賜物であり、深く感謝いたします。視察を通じて日本の福祉制度や当院の対応の良いところにも気づくことができました。

今後、研修参加者は広い視野と柔軟な思考で、後進指導に努めなければなりません。加えて、重点目標・中長期計画や建て替え計画等の更なる推進に努め、法人の健全経営と発展に尽くしていきたいと思っております。



現地職員との活発な情報交換の様子



壁の装飾にも北欧らしい色使いが施されていました



### 寄贈品の紹介と御礼

法人事務局

平成29年11月下旬より、東京小児療育病院では、TOY工房どんぐりが制作した『布おもちゃ』を、トイストーリー（Shinkankankyo）を通じてお借りし、利用者へ提供してまいります。



フェルト生地で作られた紙芝居（布おもちゃ）と、くっつけて遊ぶ“パンケーキ”

一つひとつ手作りで丁寧に仕上げられたおもちゃは、温もりのあるデザインで、利用者への療育支援の向上のみならず、一緒に遊ぶ保護者の方々や職員も和ませてくれています。

この度の提供開始にあたり、北條様

には、TOY工房どんぐりとトイストーリー（Shinkankankyo）をご紹介いただくばかりでなく、貸出し利用に伴う会費をご支援いただき、大変感謝しております。お借りしているおもちゃは、今後も大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



### 一般社団法人 尚友倶楽部より 寄贈のお礼

生活支援部通所係  
主任 佐藤 優

この度、一般社団法人尚友倶楽部より、施設が希望する物品の購入費用として現金寄附先に（福）東京都社会福祉協議会東京善意銀行から西多摩療育支援センターをご推薦して頂きました。

11月9日に贈呈式へ出席し、一九九、

八〇〇円の寄附金を頂きました。生活支援部通所係が利用者の日中活動に必要な遊具として、エアートランポリン、マット、DVDプレーヤー、スピーカー等の物品を購入しました。



られています。DVDプレーヤーはポータブルなので横になった姿勢では映像が観にくい利用者の方にも角度を調整して見せる事ができるので楽しんでもらう事ができました。スピーカーは屋外でも使用できるのでお花見や外気浴をしながらみんなで楽しめるのではないかと今からワクワクしています。購入した物品は、ご利用者の日常がより充実した活動を過ごせるように、職員一同大切に使用させていただきます。

一般社団法人尚友倶楽部様はじめ、

ご推薦を頂き（福）東京都社会福祉協議会東京善意銀行様へ感謝を申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

エアートランポリンは届いたその日から

年少部の児童、お母さんに大人気でトランポリンの上で寝返りをしたり、天井を不思議そうに眺めていたり、滑り台を滑ってみたりと親子揃って、とても楽しんでいきます。マットもピンク、黄色、肌色、黄緑のカラフルな配色で子どもたちの目を釘付けにするとともに、その柔らかさに安心して気持ちよさそうな表情で癒される子どもの姿に

更に癒される大人たちという効果が見



社会福祉法人鶴風会へ

「寄付者」芳名

平成29年7月～平成30年2月  
474名(五十音順・敬称略)

青木 徹・青木 美澄・青木りう子・青木 継穂  
赤木 勝友・赤星 恵子・明間 邦子・浅川 和子  
浅川 恭行・浅野美知恵・朝日恵美子・東 恵子  
足立茂代子・足立 嘉子・阿部 千幸・阿部美代子  
安部 良治・荒木眞佐子・有馬 正高・有村 章  
安齊 忠治・安藤 高夫・阿部 正和・足高 毅  
足立 嘉子・朝山 浩行・飯田 弥生・飯田美保子  
飯塚 綾子・飯村 誠・池田 謙三・石井 昌之  
石川 至・石川雅佳子・石川 元子・石北 壽子  
石田 勇・石田 哲朗・石田 秀子・石田みどり  
石田 美幸・石塚 博子・石原 学・板橋 理恵  
市原 克己・五日市 敬・伊藤 桂子・伊藤 治男  
伊藤 正俊・伊藤 元博・稲松 信雄・井上 和子  
淵原 博・井村 和博・井村 勤・岩村 吉晃  
出野 慶子・一林 繁・稲垣 登穂・稲松 信雄  
猪俣賢一郎・飯国紀一郎・飯国 弥生・飯国洋郎  
上田 進・宇賀 直樹・宇佐見三代・白井 雅美  
内 孝文・内野 正文・宇野久仁子・宇野 拓  
梅田 嘉子・梅田 嘉明・梅田 正法・梅津裕美子  
勿名根口保子・歌野原祐子・梅山 茂・江川 惠基  
海老原邦夫・海老原健介・遠藤 英子・海老原 覚  
海老根伊佐子・及川千代子・青梅 順子・大江 容子  
大木 晋輔・大島 剛・大関 豊・大高 究  
大館 一彦・大谷 定之・大塚 いく・大塚 慶子  
大塚 淳子・大友 則恵・大西 清・大野 浩  
大場 圭子・大場 幸延・大村 一夫・小川 昭子  
荻原 泰・奥住 一雄・乙幡 和明・小野 昭子  
小畑 恵子・小原 明・小丹 恵子・大関 忍  
大川原直子・忍足美代子・海野 俊雄・梶山 祥子  
春日井正典・桂川 修一・加藤 章・加藤 貞人

加藤 大・加藤奈津子・加藤美名子・加藤 葉子  
金澤 昭・金森 勝士・金子 晴生・榊山 哲也  
上岡 謙夫・上岡 正子・河合 典子・川崎 教子  
川村 貞夫・河村 康明・河村 裕子・菅野 寿子  
神山 悠子・加藤 聡彦・釜范 登志・鎌田 直子  
金親 正敏・鹿島田史史・勝瀬 明子・菊地 京子  
菊池 信彦・菊地 由美・菊池 信彦・鬼頭 秀明  
久保 治・久保 初美・久保木理恵子・久保田宏明  
倉田 慶子・倉根 理一・黒瀬 嘉幸・久具 宏司  
桑原 利章・倉根 理一・月花 亮・小池眞規子  
小泉 蓉子・河野 喜一・向山 徳子・小竹原安見  
小竹原良雄・小谷 義廣・児玉 浩子・小西フミ子  
小西 正子・小林 一雄・小林 静江・小林純二郎  
小林登喜子・小林 寅吉・小峰八ツ子・小山 泰正  
是枝誠太郎・近藤 陽子・小泉 美子・後藤 薫  
五島 博樹・後藤加寿美・後藤佐夏良・齊藤 眞  
酒井 雅子・境 りえ・坂本 勉・佐々木和枝  
佐多 由紀・佐藤 清子・佐藤 重雄・佐藤 宣  
佐藤 俊郎・佐藤 朋己・佐藤 信一・佐藤 信秀  
佐藤喜和子・澤村 愛・境 敏秀・佐々木裕美  
佐々木徹郎・西條 公勝・先山 隆司・齋藤百合恵  
齋藤 洋子・椎木 俊秀・獅山富美子・篠 繁市  
篠 昌治・篠 智子・柴 孝也・柴 昌徳  
渋谷 昌良・渋谷 由紀・島田 敏雄・島田 長人  
嶋田 寛子・島野 光・清水 智美・清水 友理  
正田 穂積・正田 嘉子・白石 祐子・四宮 雅子  
志鳥眞理子・柴 孝也・首藤さち子・島津和貴男  
杉本 功・杉本 寛子・杉本 元信・鈴木志賀子  
鈴木智恵子・鈴木 秀明・鈴木 正敬・鈴木 美帆  
鈴木龍一郎・炭山 嘉伸・洲謙久美子・鈴木力ツ子  
畠本 敏子・関口 広星・関島 英子・関根 貞子  
関根 伸一・関根 雅弘・芹澤 滋幹・千 哲三  
相馬 直子・相馬 紀夫・高木 利明・高地刀志行  
高橋 和俊・高橋 和美・高橋 孝彦・高橋 正  
高松 研・武居 正郎・竹内 忍・竹内 眞一  
武田 晶子・竹中 幸宏・竹中 廣夫・多田 博是  
舘田 映子・田中 淳子・田中 信・田中 美穂  
田中 芳夫・田中 義章・谷口 利江・谷藤 龍正

田部 秀山・舘野 香織・舘野 昭彦・高橋 啓  
高月 誠・多胡 博雄・千見寺るみ・津賀 節子  
塚原 英基・塚原 洋子・辻 明良・辻本公美子  
堤 俊一郎・舘岡 広・出口 久次・遠田 和夫  
所 常明・刀根 千鶴・東條 賢一・苗村 みえ  
長井美知枝・長尾 建樹・長岡 貞雄・中里 厚  
長田 園雄・長田 幸枝・中根 幸枝・中野 敏江  
中村 光一・中村 友美・中村 昌信・中村 道子  
中村 安秀・中村 豊・中村志津子・並木 温  
中谷 尚登・長澤 貞継・新見友佳子・西原 憲二  
西宮 常代・二宮 文乃・二瓶 浩一・野口 隆志  
野田 文子・野村 太郎・野村 直子・西井 華子  
二瓶 浩一・根本 暁・能戸 保光・野中 杏栄  
野中 博子・萩原 淳子・橋口 玲子・橋詰 美佐  
橋本 卓史・長谷川真美・蜂矢百合子・花岡嘉奈子  
濱中知恵子・早川 浩市・林 鴻程・林 京子  
林 ひろみ・林 佳子・原 妃婆子・原 まどか  
原 裕平・原田裕美子・原田 孝・原田千鶴子  
早原 千鶴・馬場英津子・樋口志津子・久田 和子  
平田 徹・弘中 史・土方 淳・疋田 照子  
蛭田 啓之・福島富士子・藤田よし江・深澤 保子  
北條 芽以・星野 光雄・馬嶋 順子・前畑 安宏  
馬上的るみ子・牧田みどり・牧野 道子・馬嶋 正隆  
松尾 賢二・松澤 幹子・松田 光展・松田 正子  
松原 美保・松原 龍弘・松本 誓子・松本 光  
松山 穂豊・丸山 和子・丸山希実子・松島 英乃  
松本 修三・前澤 葉子・前澤 善一・牧野 紘美  
三木 一正・三木 延義・水吉 秀男・水野 雅文  
水野 惇子・三船麻梨子・三宅 三・宮崎 元伸  
三登 和代・三木 一正・美島 利通・村井 貞子  
村川 公一・村川世津子・向山 徳子・向山 秀樹  
面田 眞和・望月 陽子・森 紘子・森 克彦  
森澤 豊・森松 直美・森田 啓子・守田 正三  
守田 洋・森澤 豊・八代 博子・柳 恵子  
柳瀬 達夫・矢花 清一・山川ふみ子・山崎 純一  
山下 育子・山下 美玉・山下 香澄・山田耕一郎  
山田マチ子・山田 輝代・山本 温子・家城 恵子  
山口 潜・山村 憲・矢野 春雄・横井 郁子

横山 祐作・吉川 芳登・吉田 勝彦・吉永 克己  
吉原 彩・吉見 梓・与田 仁志・米澤 和彦  
龍 倫之助・若月 育志・和田 恵子・和田じつ江  
綿谷 陽子・渡辺 明彦・渡辺 久子・渡辺 裕一  
(学)東邦大学 北田教授  
(学)東邦大学事務局長 中村俊一郎  
東邦大学 看護学部 村上好恵  
東邦大学看護学部 青藍会・桜蔭学園 生徒会  
井萩地区民生児童委員協議会・(株)吉番屋  
西関東営業部・(株)エクスセル・サービス  
小原労働衛生コンサルタント事務所・小太郎漢方  
杏林製薬(株)開発部 小田島正明・源草社 吉田  
一般社団法人 尚友倶楽部 理事長 波多野敬雄  
医療法人 衆和會 さなだ医院  
塩野製薬(株) プロジェクトマネジメント部 吉本淳  
(旬)タケナカ・東京冷機工業(株)  
トマトの会 代表 塩野多佳子・(株)東新商會  
にれの木・八王子建物管理(株)  
社会福祉法人 ひなた和菜会・比留間豆腐店  
フィナンシャルライアンス 杉林勤・募金箱  
南観光交通(株) (旬)吉澤薬品 代表 吉澤隆  
NPOわらへ・東京小児みどり父母会  
東京小児療育病院 父母会  
地域支援センター 通所 保護者会・鶴風会後援会  
きらら会(第二十一回) その他(匿名)



正面玄関モクレン